

2009年度を振り返って

2009年度は大きな委託事業(たちばなブランド創出推進事業/ふるさと雇用促進事業)を受託し、新規雇用者2名を迎え、あらたに高津区子母口にたちばなランチ(事務所)を開設しました。その他にもたまフォーラム・コミュニティビジネス人材マッチング事業、たちばな農のあるまちづくり推進事業など前年度よりかなり多い事業を受託しました。事業収入も前年度の全体比4割弱から7割にあがり、経営上は安定の方向に向いていますが、その分スタッフが労働過重になってしまいました。

また第2期中期計画の最終年でしたが、その大きな柱である中間支援組織としての機能をそれなりに果たしてこれたのではないかと思います。場の提供としての「遊友ひろば」は開設まる5年を迎え、親子ひろばは「5周年記念親子コンサート」を、健康麻雀は「5周年記念麻雀大会」を開催し、さらに「ひろば5周年ありがとうパーティ」を昼の部、夜の部の2部構成で行いました。市民の出会いの場として機能してきたと考えます。しかし情報をもちより、課題の解決を模索する場としての機能は、まだ開発途上です。

人材の発掘・養成に関しては、2009年度初めてコミュニティビジネスサポートセンターのハンズオン支援を得て、自前でCB創業講座・地域コーディネート講座を開くことができました。そしてその中でのつながりを生かした取り組みなども継続できる状況が生み出されてきました。またスタッフの研修として、さまざまな講座を受けましたが、そのことで中間支援の横のつながりを持つことができ、ネットワークを広げることができました。

会員の状況

	正会員個人	正会員団体	賛助会員	合計
2008年度末	139名	5団体	2名	146名
2009年度末	145名	6団体	3名	154名

会員は個人会員の入会が13名、脱退が7名、団体会員は東通り商店会を含め2団体が新規に加入、1団体が脱退、賛助会員は1名新入会がありました。

2009年度事業報告

・空き店舗活用コミュニティ施設

地域のたまり場「遊友ひろば」の運営(定款第5条 ~)

(1) 親子ひろば

2009年度は、前年度に引き続き、土曜日の親子ひろばの開催をしましたが、スタッフの負担が多かったため不定期としたところ、2回しか開催できませんでした。お父さんも一緒に参加しやすいプログラムが少しずつ浸透してきました。独立行政法人福祉医療機構の助成金(約140万円)をいただくことができました。その助成金で、木のおもちゃの購入やバラエティーに富んだ講師による講座など、プログラムの充実をはかりました。また、5年間の親子ひろばの記念冊子を発行するこ

とができました。

参加組数： 月曜日 43 回開催、385 組（親子で 1 組）1 回平均約 9 組（去年は 10 組）
木曜日 47 回開催、381 組 1 回平均約 8 組（去年は 9 組）
土曜日 2 回開催、63 組

参加費：1 組 200 円（100 たままで使用可。たまの使用率 13% [去年は 19%]）。

プログラム：前年度に引き続き、地域の方を講師とする講座を定期的に行うことができました。また、参加者のお母さんに講師になってもらった講座も開催することができました。ひろばの中で、参加者同士が互いに教えあったり、協力し合ったりする場面が多々見られるようになって来ています。以下のような子育て中に必要な情報提供や親子がともに楽しめる内容の講座を開催しました。

「わらべうた」(定期・継続) 「うたとおはなしの会」(定期・継続) 「親子で素食」(定期・継続) 「絵本を使ったリトミック」(定期・継続) 「0 才からの絵本選び」(定期・継続) 「なのはな保育園園庭で外遊び」(定期・継続) 「踏み踏みマッサージ」(不定期・継続) 「ベビーマッサージ」 「アロマクラフト」(不定期・継続) 「手芸小物などの製作・お菓子作りの講座」(不定期・継続) など。夏季は、なのはな保育園の協力を得て、保育園の乳児用プールを借り、中学生から大学生までのボランティアを受け入れ、プール遊びをしました。

保育：保育が必要な講座は、多摩保育グループの協力を得て運営しました。また、保育ボランティアとして、日本女子大の学生さんが定期的に来てくれました。また、地域の学生さんも不定期で来ていただきました。

広報：親子ひろばのプログラムのお知らせを、保健センターや商店街のお店に掲示し、新規利用者の確保を図りました。

(2) 健康麻雀

・健康麻雀サロン / 毎週金曜日 10 時 ~ 15 時 会費 : 1,500 円

開催日数 : 50 日 参加者数 : 648 名、1 回平均約 13 名 (去年は 49 日、568 名)

・初級者麻雀サロン / 毎週火曜日 13 時 ~ 16 時 会費 : 1,200 円

開催日数 : 46 日 参加者数 : 510 名、1 回平均約 11 名 (去年は 46 日、406 名)

いずれもぐらす・かわさき会員は 1,000 円。たまは 500 たままで使用可。たま使用率 3.3%

主に高齢者を対象とした、健康麻雀（賭けない、飲まない、吸わない）は、麻雀を楽しみながら自然に頭や指先をつかうことができ、心身の健康の促進が図られます。

健康麻雀サロンは、5 周年記念の麻雀大会を 9 月に開催し、毎年開催の新春麻雀大会とあわせて年間 2 回の大会を開催することができました。新たな取り組みとして、KS コミュニティビジネスアカデミーの修了生のボランティアにより、2008 年 1 月 ~ 12 月までの年間の順位の集計をし、表彰しました。また、毎月月間の成績も集計し月間賞と役満賞の表彰を作りました。

初心者サロンは、前年度に引き続き講師としてぐらす・かわさき会員の瀬川千恵さんや会員で金曜日の参加者の小平泰雄さんがボランティアで関わってくださっています。月に 1 回、ワンポイントレッスンと参加者同士の交流のためのお茶会を開催しました。丁寧な指導のため、参加者が友人を誘ってきてくれるなど、さらに参加者が増えてきています。

(3) マクロビオティック料理教室

2008年度まで開催していた昼食会と同じ講師で、月1回料理の講座を開催しました。近頃アトピーやアレルギーの子どもが増えています。その一つの解決策でもある「自然の恵を残さず丸ごといただくこと（一物全体） 暮らす土地の旬のものを食べること（身土不二）」を基本とした「マクロビオティック」料理を学びました。当初目的としたとおり、幅広い世代の地域の人たちが集い、講師を中心に共に学びあう場となりました。

日時：第1または第2水曜日 10時～13時 年間10回開催（1期4回×2期と3期の2回）

受講料：全4回で6000円、1回1800円 参加者延べ61人

(4) 「遊友ひろば」を活用した各種講座の運営

自主事業以外の時間帯にひろばを有効活用し、地域の人材が活躍できる場の提供を目的として、各種講座のコーディネートを行いました。コミュニティ・ビジネスの人材の孵化器としています。

リトミックおんぷ 日時：毎月4水曜日 10時～10時45分(1才半～)、 11時～11時45分(2才～) 各9回開催、参加者数：合計63人

大人の油絵教室 日時：毎月第1土曜日13時半～15時半、8回開催、参加者数：24名

(5) 「遊友ひろば」および書類入れボックス・レターボックスなどの貸し出し

遊友ひろばの貸し出し：自主事業の時間帯と定期的な貸し出し（下記）でほとんど日中のひろばは使用されています。夜の市民活動団体の会議などは、市民活動支援ルームや多摩市民館グループ室など無料で利用できるところがあるので、そちらが優先的に利用されるようです。

毎週火曜日午前中「気功教室」、毎週水曜日午後「造形教室」、隔週金曜日夕方「リトミック教室」、第4水曜日午前中「リトミックおんぷ」、第2・第4土曜日午前中「生け花教室」(終了)

スペースの貸し出し：31団体・個人に対し、延べ192回の利用がありました(2008年は18団体に対し183回の利用)。貸し料は2時間1500円、ぐらす・かわさき会員1000円(2割までたま使用可。たま使用率6.9%)

書類入れボックスやレターボックスの貸し出し：宣伝していないこともあってか、あまり動きがありませんでした。現在使用している団体はリトミック教室「みんなの会」、定時制高校を守る川崎市民の会、かわさきの安全でおいしい水道水を守る会

(6) 地域の物販コーナーの運営

市民活動の支援のための物販コーナーを運営しました。

フェアトレード商品やNPO法人フリースペースたまりばの藍染などの作品、障害者施設の作品を委託販売しました。また地域通貨たまでは、会員の方の手作り雑貨の委託販売やぐらす・かわさきで作った廃油石けんなどの販売をしました。

(7) 商店街活性化のための活動

昨年度に引き続き、登戸東通り商店会の「エブリデイ・エコ宣言」に沿って、わくわくナイトバザールで、マイ食器持参運動やリユース食器導入を呼びかけ、実現しました。また、使用済み天

ぶら油の回収や、その油を使ってキャンドルを作るワークショップを商店街の空き店舗で開催したり、フリーマーケットを実施するなど、地域通過「たま」とともにイベントへの盛り上げにも貢献しました。

・ぐらすサポート基金の運営（定款第5条）

ぐらすサポート基金により、市民団体への助成を行いました。2008年度から始めた新システム(上限10万円で1年間申請内容にそって活動を行い、報告すれば無選考で次年度も同額の助成を行う)の2回目になります。10団体から応募があり、「NPO法人遊び舎」、「Coaクラブ」、「地域から平和を考える会」、「ハーモニーランド」、「復興ボランティアタスクフォース」の5団体に決定しました。

また、2008年度の市民活動助成5団体の報告会を5月に開催しました。これがお互いの交流になり、新たなジョイント企画が実際に行われた団体もありました。

2004年の遊友ひろば開設に合わせ、「ひろばを使ったイベント助成」を最初に、2005年度から3年間は1期の市民活動助成、2008年度と2009年度は2期の市民活動助成の6年間にわたり行ってきたぐらすサポート基金は今回で終了します。小さな地域の市民活動の活性化に寄与できたと考えます。この経験を今後の地域ファンドの検討に生かしていきます。

・まちづくりに関わる活動の調査・研究及び応援（定款第5条～）

（1）たまフォーラム

2009年度も川崎市から事業委託を受け、たまフォーラムの事務局補助事業とコミュニティビジネスサポートのための人材マッチング・相談窓口業務を行いました。

ぐらす・かわさきもたまフォーラム会員になり、事務局も担当しました。専門部会として、中間支援機能についての部会を2回、市民・地域ファンドの学習会を1回行いました。それも出席者が少なく、会員全体の話し合いにはなりません。またコア会議は2回行いました。たまフォーラム全体会は年2回なので、時間がなく、コミュニティビジネス創出支援として、どのようなことが必要なのか、そしてたまフォーラムとしてどの部分を担うのか、そのためにはどのような組織が良いのか、会員の共通確認が得られず、課題を次年度へ引き継ぎました。

人材マッチング・相談窓口業務としては、KSアカデミー1期の修了生を対象にステップアップ講座全4回を行いました。また9月からは毎週土曜日の午後、コミュニティビジネス相談窓口を開設しました。最初はKSアカデミーの修了生の交流の場としても機能するように、呼びかけをして、一定程度集まりましたが、その後サロンのような機能は果たせませんでした。一般のコミュニティビジネス相談もいくつかはありましたが、このような形での開催については再検討の必要があると思われました。またコミュニティビジネスサロンの中で、起業した方をお呼びしてお話を聞く会も行いましたが、参加者が少なく広報活動の不十分さを反省しました。

（2）たちばなブランド創出推進事業

2009年度は高津区からたちばなブランド創出推進事業を受託しました。この事業は、厚生労働省のふるさと雇用再生特別交付金を活用したふるさと雇用再生特別基金事業なので、新規雇用者2名

を本事業の実施のために採用しました。事業は1年ごとの契約で3年計画のものです。この事業は2009年3月に高津区が区民と協働で策定した「たちばな農のあるまちづくり推進方針」に基づき、食と農を通じた市民交流から次代の地域ブランドを耕すための事業です。

本事業内では、食、農、農のある風景と暮らし、歴史遺産などの地域資源を活用した地域ブランドづくりを行うことで、地産地消や区民の交流を図るもので、さらに事業化を達成することによる雇用創出をも目的としています。

3年計画の中の初年度である今年は、まず「地域を耕す」ことを目標に、たちばな産の農産物や加工品をPRし販売する“移動見本市”を38回開催しました。たちばなブランド商品の開発と販売も行いました。また、移動見本市で個人に販売するだけでなく、区役所のキャンペーンと連動して飲食店への販売も徐々に取り組んできました。

また、農を体験するプログラムとして「援農」ボランティアを募集し、延べ12日援農を実施、参加者延べ人数は52名でした。

多くの農家さんや消費者と、じかに接する機会を多く持ち、情報収集や実験としての事業をフル活動しました。今後は採算性の確保に向けて、的を絞った効率的な展開を仕掛けていく必要があります。

(3) その他

たちばな農のあるまちづくり推進事業

たちばなブランド創出推進事業と並行して、「たちばな農のあるまちづくり推進会議」を設置し、地域住民、農業者、行政職員ら、たくさんの区民の参加で、農のあるまちを守り育てていくための事業が行われました。この事業も、前述の「たちばなブランド創出推進事業」と連携して取り組むものとして受託し、推進会議や推進会議から発生した部会の運営を行いました。具体的には食育クイズの作成、「たちばなおいしいハイキング」の企画運営、「農家のおばちゃんのでづくりおやつと昔の暮らしのお話」の会の企画運営などを行い、年度末にはフォーラムを開催しました。

「区民活動情報ひろばマップ掲載団体募集事業」

多摩区から上記の事業を受託し、区役所と協働で区民活動を応援する冊子作成のためのデータ収集を行いました。

その他

2008年度に専修大学からの委託事業として行った川崎市コミュニティビジネスの現況調査をテキストにし、KSコミュニティ・ビジネス・アカデミーの講師を行いました。また、KSコミュニティ・ビジネス・アカデミー生のインターンシップの受け入れをしました。

NPO法人まちづくり情報センターかながわ(アリスセンター)が厚生労働省から受託した「コミュニティ・ジョブ支援事業」の協力機関としてのインターンシップの受け入れは、今年度はありませんでした。

・まちづくりに関わる情報の収集・蓄積および提供(定款第5条)

(1) 学習会・講座の企画・運営

コミュニティ・ビジネス創業講座・地域コーディネーター講座

経済産業省の「平成 21 年度地域新事業創出発展基盤促進事業費補助金」を活用し NPO 法人コミュニティビジネスサポートセンターが実施する、中間支援団体向けハンズオン支援「人材育成・機能強化プログラム」事業に応募し採択され、「コミュニティビジネス創業講座」「地域コーディネーター講座」を開催しました。11 月から 12 月にかけて、各講座 3 回開催し、それぞれ 4 名と 11 名の参加者がありました。

この講座は、コミュニティビジネス創業支援のためでもありましたが、ぐらすかわさきのノウハウ習得として、有益なものでした。また、受講生の事業計画がきっかけとなり、新たな取り組みが始まりました。そして、その受講生同士のネットワークができました。

持続可能な地域づくりの学習会

3 月 27 日(土) 遊友ひろばで「映画『ラダック 懐かしい未来』を見て」と題し、インドの厳しく閉ざされた環境で、市場化の波に飲まれて「人間関係がギスギスしてしまった・・・」に至る社会の変貌を描いた映画を見ました。講師は理事の泉さんをお願いをしました。上映後は参加者 14 名が感想を語り合いました。

予算学習会

3 月 6 日(土) 遊友ひろばで「平成 22 年度川崎市予算」勉強会を開催しました。予算学習会はぐらす設立時から継続して行っています。スタッフ含め 15 名で川崎市職員の方の説明を聞き、質疑・意見交換を行いました。

憲法・平和問題

「地域から平和を考える会」が、気軽におしゃべりしながら「いのち」や平和について学ぶ「PEACE Café」を遊友ひろばで開催し、それに協力しました。

また、川崎市平和無防備都市条例の直接請求運動に協力しました。

(2) ぐらすレターの発行

月 1 回(年間 10 回、4・5 月合併、11・12 月合併)発行。事業報告・地域の情報・商店街情報・イベント情報、または会員からの問題提起などの投稿を掲載し、会員や関係者へ情報提供しました。

ぐらすレター 79 4 月・5 月合併号

- ・ ぐらすサポート基金 2009 募集が始まります！
- ・ 川崎市の 2009 年度予算学習会「税金に思う」
- ・ 神奈川県高校入試の現状報告「少子化なのに多数の公立高校不合格者発生」
- ・ まだ見ぬ君へ～お手伝いできるかもしれない私から～
- ・ 「報酬の支払える NPO になるために」本の紹介と感想
- ・ 南部に暮らすハルモニたち その 1
- ・ 地域通貨「たま」情報 / MESSAGE BOARD

ぐらすレター 80 6 月号

- ・ ぐらすサポート基金 2008 報告会を開催しました！
- ・ ぐらす・かわさき第 9 回定期総会報告
- ・ 新規事業・たちばなブランド創出推進事業、「たま楽市」3～5 月の報告
- ・ な～んかおかしい その 5 「触られた私が悪いのか？」

- ・ 地域通貨「たま」情報 / MESSAGE BOARD
ぐらすレター 81 7月号
- ・ ぐらすサポート基金 2009 助成団体決定
- ・ 「貧困」が子どもを学校から追い出す？
- ・ 南部に暮らすハルモニたち その2
- ・ たちばなブランドをつくろう！事業報告
- ・ 投稿 憲法9条改定を許さない6.14 全国集会に参加して
- ・ 非公開審議で作られた「川崎市議会基本条例」
- ・ 地域通貨「たま」情報 / MESSAGE BOARD
ぐらすレター 82 8月号
- ・ たちばなブランドを作ろう！事業進捗状況報告
- ・ 持続可能な地域づくり学習会 川崎市地球温暖化対策条例の基本的考え方について
- ・ よみうりランド遊園地に残土が埋め立てられる！ - 川崎市へ意見書を出そう！ -
- ・ なーんかおかしい その6「バカ丸出し」
- ・ 2009 衆議院選 & 国民審査「あなたは何を基準に投票しますか？」
- ・ 地域通貨「たま」情報 / MESSAGE BOARD
ぐらすレター 83 9月号
- ・ たまフォーラム コミュニティ・ビジネス・サロンスタート
- ・ 土井さんのマクロビオティック料理教室 報告 & お知らせ
- ・ リユース食器利用促進中！！
- ・ 新型インフルエンザ接種順位を決める前に
- ・ 南部に暮らすハルモニたち その3
- ・ 大村トミエさんのご冥福をお祈りします
- ・ 地域通貨「たま」情報 / MESSAGE BOARD
ぐらすレター 84 10月号
- ・ 遊友ひろば開設5周年記念パーティ開催！
- ・ 市民グループ紹介 16 「地域から平和を考える会」
- ・ この本読んでみませんか
- ・ ち・おを読む会川崎 はじまります！
- ・ なーんかおかしい その7「別姓リアル報告」
- ・ 川崎市長選 10月25日は投票へ行こう！
- ・ 「たま楽市」9月の報告
- ・ 地域通貨「たま」情報 / MESSAGE BOARD
ぐらすレター 85 11・12月合併号
- ・ 遊友ひろば5周年報告
- ・ たちばなブランドを作ろう・わくわくナイトバザール報告
- ・ 南部に暮らすハルモニたち その4
- ・ 市民グループ紹介 17 「ハーモニーランド」
- ・ 地域通貨たま2周年！ありがとう！

- ・ 地域通貨「たま」情報 / MESSAGE BOARD
ぐらすレター 86 1月号
- ・ あけましておめでとうございます 今年も寄付集めにご協力をお願いします
- ・ 遊友ひろば5周年記念 親子コンサート&健康麻雀大会報告
- ・ 学生と市民の交流ラウンジ
- ・ 市民グループ紹介 18 「Coaクラブ」
- ・ peace cafe 持続可能な未来を求めて～温暖化も原発災害もごめんだ～
- ・ たま楽市 12月の報告 赤ちゃんから80代まで参加多数!
- ・ な～んかおかしい その8「差別表現」
- ・ 地域通貨「たま」情報 / MESSAGE BOARD
ぐらすレター 87 2月号
- ・ 2010 - 2012 新たな中期計画の策定に向けて
- ・ 市民グループ紹介 19「復興ボランティア タスクフォース」
- ・ 寄稿 高校の卒業式は今!
- ・ 南部に暮らすハルモニたち その5
- ・ 「ぐらす・かわさき」からのお知らせ / MESSAGE BOARD
ぐらすレター 88 3月号
- ・ 中期計画の意見交換の会へ参加して 設立当初の思いや怒りを忘れず
- ・ 注目しよう! 川崎市の税の使い方
- ・ 「宿河原」のきらりと光るお店を訪ねて
- ・ 「親子で素食!」さよなら&これからも
- ・ 市民グループ紹介 No.20「遊び舎」
- ・ な～んかおかしい その9「性教育バッシング」
- ・ 3月・4月のスケジュール / MESSAGE BOARD

(3) インターネットの活用

2008年度にリニューアルを行い、情報の更新が非常にやりやすくなっています。しかし、内容として自主事業のイベントのお知らせなどが中心です。活動内容をもっとわかりやすい形でお知らせしたり、商店街情報や他の市民活動の情報など、幅広い情報が掲載できるような工夫が必要です。

・ さまざまなグループとともにつくるイベントなどへの参加と応援 (定款第5条)

(1) 地域通貨たまの取り組み

地域の人たちの出会いのきっかけをつくり、人と人、人と市民活動団体、人と事業者をつなぎ、「ボランティア活動に参加しやすくなる、人と人との助け合いがやりやすくなる」ということを目指して、2007年10月から流通実験を始め、2008年10月から本格スタートをしました。2009年10月には、無事2周年を迎えることができました。前年度同様、川崎自治研センターのスタッフの協力を得、ぐらす・かわさきが事務局を担い、専修大学・日本女子大・田園調布

学園大学などの教員、川崎市経済労働局、多摩区役所、多摩区社会福祉協議会の担当者も委員やオブザーバーなどで参加していただき、地域通貨「たま」運営委員会を構成し、「たま」の運営を行っています。

2009年度は、渋谷を中心に行っている地域通貨「アースデイマネー」と互換できるようになりました。また、区民提案事業「磨けば光る多摩事業」への事業提案をし、地域通貨たま運営委員会として「地域内循環型マーケット『たま楽市』とリユース食器促進活動」が採用されました。その計画に基づき、「たま楽市」は全5回(内、1回は悪天候により中止)開催しました。またリユース食器促進活動は、「生田緑地サマーミュージアム」や「登戸東通商店街わくわくナイトバザール」「たま楽市」で実施し、計7回行いました。

さらに、かわさき市民公益活動助成金にも応募し、「地域通貨を使った『できること&してほしいこと』交換促進事業」として採用されました。その取り組みとして、「たまでできること・してほしいこと検索システム」を稼働させ、インターネット上で自分が提供できることやもの・してほしいことやほしいものがあるときに手軽に調べ相手を探すことができるようになりました。また、たま体験会や交換会を開催し、たまの会員の方はもちろんのこと、会員以外の方も多く参加し、情報交換や出会いの場となりました。専修大学の課題解決型インターンシップで26人もの学生さんを受け入れました。彼らには、イベントのボランティアやお店の取材などで力をもらいました。

個人会員は目標数の150名に達し、164名(前年度134名)と緩やかに伸びています。「たま」が使えるお店などの事業者会員は40店(前年度38店。実際は新規は8店だったが、区画整理事業に伴う移店や閉店により4店件が退会)またボランティアなどに配布してくれる団体会員は19(前年度16)と、伸びは緩やかです。もっと地域通貨「たま」を多くの方に知ってもらい、使ってもらうためには、使える場所、もらえる場所を拡大すると共に、マスコミへの投げかけを事前にきちんと行い、メディアや地域商店への広報を定期的にしっか行い行うことが重要になってきます。

2009年度アースデイマネーとの互換

「4600たま」を「4600r」に交換しました。

「200r」を「200たま」に交換しました。

学生と市民の交流ラウンジ：2008年は、日本女子大学生涯学習センター主催で、たま運営委員会が協力して「学生×まちの可能性を探る！」という講座を開催しました。その発展として2009年は12月5日(土)に、「学生と市民の交流ラウンジ」を開催しました。専修大学サテライトキャンパスを会場にし、多摩区内でまちに関わる活動を行っている学生の活動として5団体(専修大学、日本女子大学、明治大学の個々の活動)の報告がありました。また、多摩区内で活動する市民団体の活動として5団体(世界のひろば、NPO法人ウィメンズハウス花みずき、日向山うるわし会、NPO法人療育ネットワーク川崎、読売ランド前駅周辺まちづくりプロジェクト)の報告がありました。その後、質疑応答や意見交換をし、交流会も開催をしました。参加者は発表者も含め約60名で、地域で活動している学生と市民団体が交流できるよい機会となりました。3大学の学生の横のつながりもできてきました。

ぐらす・かわさきではひろばのさまざまな事業で利用料の一部として「たま」を受け入れています。また、ぐらすレターの発送やひろばのボランティアに対して、30分100たまの割合でお礼として「たま」を配布しています。

ぐらすでの「たま」利用状況（2009年4月1日～2010年3月31日）

受け入れ

親子ひろば：22,050たま（32,800たま） マクロビ料理教室：2,400たま（今年から）
健康麻雀：32,600たま（20,000たま） 廃油石けん売上げ：7,750たま（14,650たま）
遊友ひろば利用：17,950たま（13,450たま） 寄付：850たま（450たま）
その他（学習会参加費等）：4,900たま（20,100たま） 合計：88,500たま（108,350たま）

ボランティアに配布

90,250たま（80,000たま） （ ）内は前年度実績[08年4月1日～09年3月31日]

（2）たまたま子育てまつり、たまたま子育てネットへの参加

多摩区内の子育て支援グループが協力して行う「たまたま子育てまつり」は、2009年で7回目。インフルエンザの流行時期と重なり心配しましたが、例年通り盛況でした。

ぐらす・かわさきは視聴覚室を借り、「心を育てる わらべうた」を開催しました。このわらべうたは、定期的に親子ひろばで行っているものです。近年、昔のうたは廃れつつあり、語りつがれなくなってきています。わらべうたは、子どもたちの中にある響きで、その響きにたくさん触れることで、心が豊かになっていきます。すばらしいわらべうたの体験をしてもらおうと、今回は子育てまつりでの開催をお願いしました。当日は、多くの人に気軽に体験してもらおうということで、午前午後合わせて3回各30分と、いつもの親子ひろばのプログラムより短めで行いました。参加者多数で盛況となりました。

たまたま子育てネットワークに参加しました。たまたま子育てネットワークでは、HPを中心とした情報提供とネットワークづくり、定例会の開催を中心に活動しました。特にHPで多摩区内の公園についての情報提供の充実をはかりました。

（3）その他

- ・「区選出議員と市政を語る会」は2009年度磨けば光る多摩事業には採択されませんでした。会の事務局を担い、川崎市議会へ「今回制定された議会基本条例にそって、市議会主催で各区選出議員と市政を語る会を開催するよう」陳情を提出し、結果は継続審議となりました。
- ・「多摩川崖線緑地保全ネットワーク（たまよこネット）」の事務局を担い、シンポジウム「川崎の農を知ろう」の開催や団体交流会などさまざまな活動を行いました。